南信州（飯田下伊那）地域の人口特性

しんきん南信州地域研究所

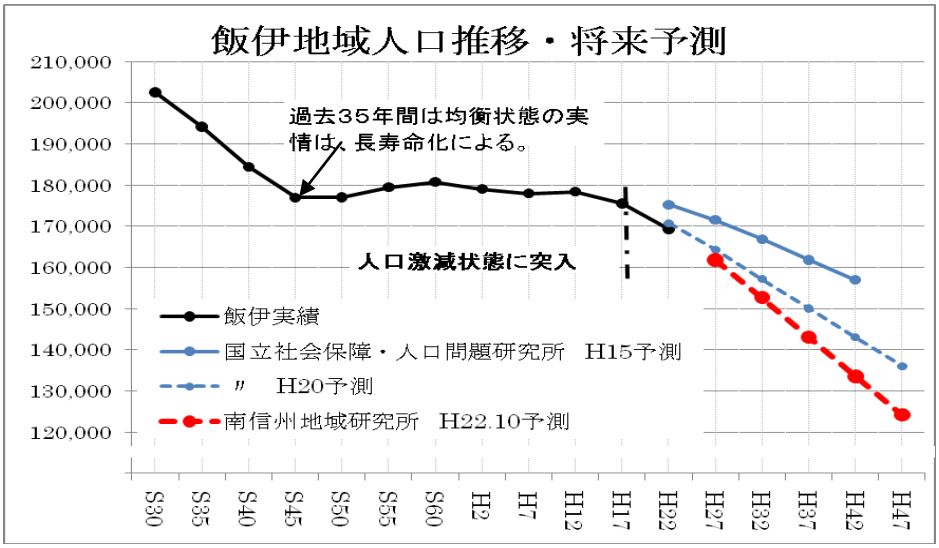
○南信州（飯田下伊那）地域の人口

南信州（飯田下伊那地域）の 2010 年の人口は 169, 303 人。長野県人口は 2, 150, 437 人で、県民人口の約８％を占めています。なお、三遠南信地域全体（約 226 万人）においても、ほぼ同水準となっています。

○減少する地域人口

少子化や高齢化の問題を抱えながらも昭和 45 年以降数年前までは、地域の総人口が維持されてきました。しかし数年前から急激な減少状況になっています。

将来人口の予測については国立社会保障・人口問題研究所から平成 15 年予測、平成 20 年予測が発表されていますがいずれも発表数値をさらに下回ることが見込まれる状況です。

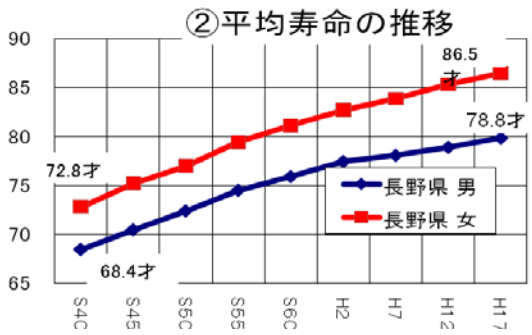


（＊）毎月人口異動調査（「市町村別年齢別各歳別人口」、「市町村別異動状況」：H16 年 10 月 1 日～21 年 10 月 1 日）、長野県衛生年報（「出生数、母親の年齢・市町村別」、「死亡数、性、年齢階級、市町村別」：H17～H19）をもとに予測。

○過去 35 年間人口が維持された要因

上記過去 35 年間人口が維持されたのは、次のグラフのとおり平均寿命が延びたことにより人口が維持されたことが一つの要因です。

0 歳～14 歳人口は昭和 40 年には 46, 347 人であったものが平成 21 年には 24, 157 人へ約半減し、15 歳～64 歳人口は、121, 403 人が 95, 809 人と 20%余減少したのに対し、65 歳以上の人口は 16, 735 人から 50, 274 人へと 3 倍増となっています。

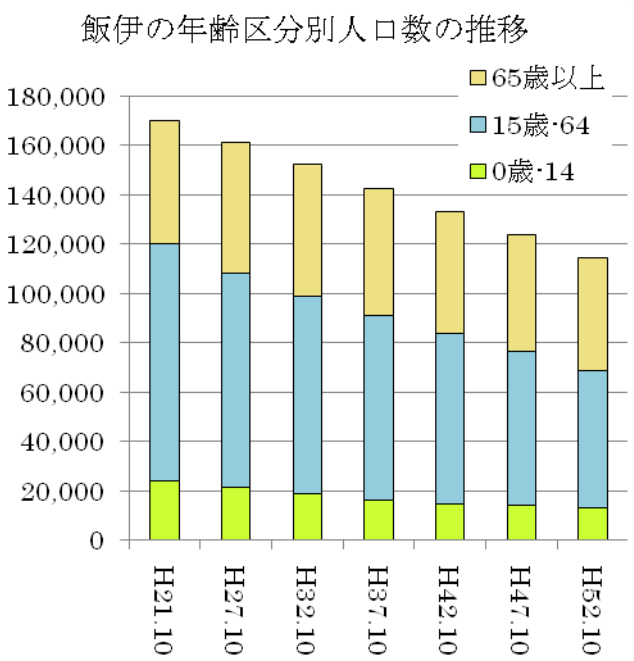


○高齢化の進展と生産年齢人口の減少

自然動態では出生数を死亡数が上回り、社会動態でも転出が転入を上回ることによる人口動態の増減差は年ごとに差を広げ人口減少が拡大する傾向にあります。

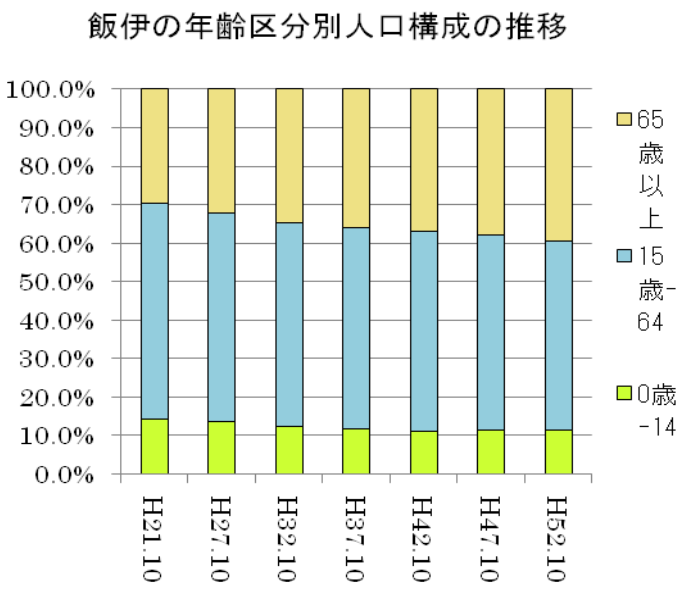
将来人口予測は毎月人口異動のデータを用いて H16.10.1 から H21.10.1 の 5 年間実績を基にして女性の年齢別出生数、自然及び社会異動による増減をシミュレーションしました。

その結果、年齢区分別では、右図のような人口数、人口構成比の推移予測となっています。



当南信州地域では、公共交通機関の整備が地域の長年の悲願でしたが、ようやくリニア中央新幹線開通と駅の設置（2027 年開業計画）が現実のものとなってきました。

地域の維持発展のための必要な産業等活性化への取り組みとして、飯田市の「地域経済活性化プログラム」や各市町村における「各種産業振興」の事業が行われており、それぞれに成果を上げているところですが、人口動態を踏まえてのさらなる施策が必要です。



都市の無機質化が進み自然回帰を求める人が多くなっているとき、飯田下伊那地域は言い表せないほどの豊かな自然に恵まれている地域と言えます。しかし一方で、「残すべきもの」「積極的に演出して作り出すもの」「利便のために開発するもの」の区別認識を明確にしながら地域を創りあげていくことが必要となります。

放置された林地・農地は自然とは言えず、里山と同様に人の手を加えることが自然維持となることでもあり、それをボランティア活動に頼るのみでは解決しません。住民所得を生み出す循環可能な存在にして永続させなければなりません。

当地域は、“自然”“歴史”“文化”“産業”“人”を誇れる優れた地域であることから地域の人々の英知により、従前にまして豊かで暮らしやすい地域が築かれることを願うものです。